

令和2年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,500	8,779	4,468	4,311	△ 6	△ 2
2 千 石	4,063	6,809	3,427	3,382	△ 13	△ 36
3 内 山	5,814	7,975	4,219	3,756	△ 23	△ 38
4 大 和	3,458	6,717	3,309	3,408	△ 3	△ 3
5 上 野	7,413	15,517	7,697	7,820	△ 19	△ 6
6 高 見	7,411	13,423	6,411	7,012	16	2
7 春 岡	7,047	11,117	5,821	5,296	△ 12	△ 7
8 田 代	11,560	21,914	10,579	11,335	△ 6	△ 15
9 東 山	10,468	19,512	9,631	9,881	△ 18	△ 40
10 見 付	4,322	8,062	4,074	3,988	△ 20	△ 12
11 星 ケ 丘	3,555	6,944	3,146	3,798	△ 18	△ 38
12 自 由 ケ 丘	3,539	7,149	3,260	3,889	△ 10	△ 16
13 富 士 見 台	6,500	15,300	7,092	8,208	10	15
14 宮 根	3,887	8,192	3,897	4,295	6	9
15 千 代 田 橋	3,724	8,443	3,971	4,472	12	7
千 種 区 計	88,261	165,853	81,002	84,851	△ 104	△ 180
R1.10.1	87,722	165,863	81,030	84,833	161	115
対 前 年 比	539	△ 10	△ 28	18	△ 265	△ 295
名 古 屋 市	1,128,177	2,328,138	1,149,067	1,179,071	△ 500	△ 1,490
愛 知 県 (R2.9.1)	3,269,851	7,545,268	3,774,593	3,770,675	768	△ 1,735

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	97	131	△ 34	808	954	△ 146

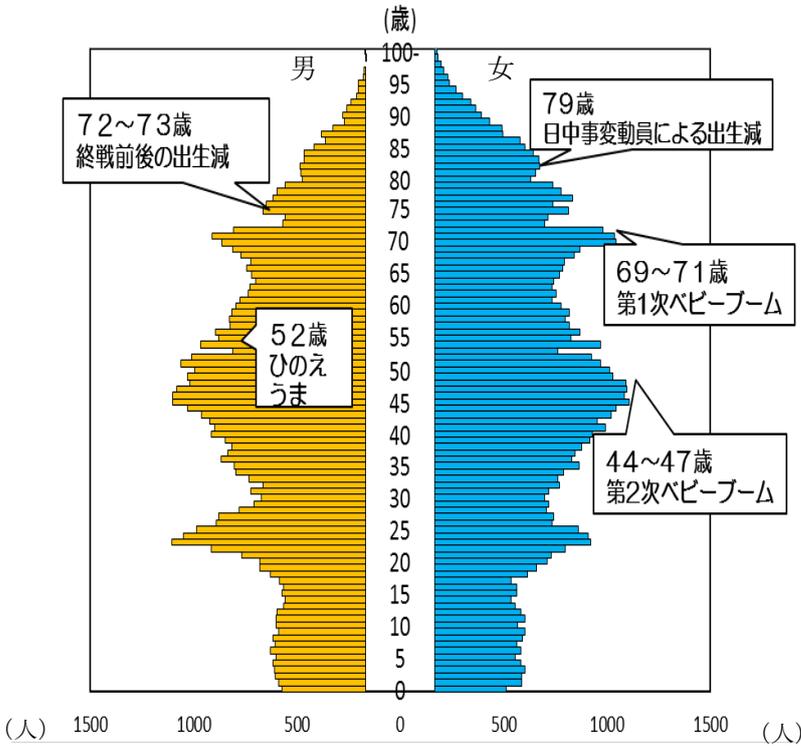
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

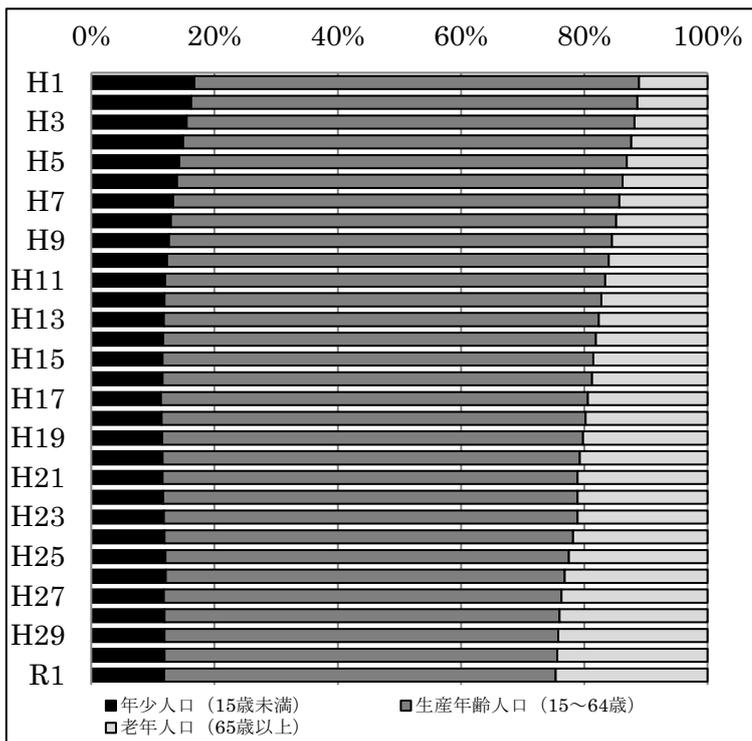
令和2年10月1日現在の千種区の世帯数は対前月比104世帯減の88,261世帯となっており、人口は対前月比104人減の165,853人となっています。今回は令和元年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。



令和元年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成で見ると、79歳および72～73歳の年代は日中事変や第二次世界大戦の影響によって、また52歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、69～71歳は第1次ベビーブームの影響によって、44～47歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この2回のベビーブームの影響に伴う2つのふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。

図1: 千種区の年齢各歳別人口構成 (令和元年10月1日現在)



平成元年から令和元年の各年10月1日現在の年齢3区分人口の割合の推移を見てみます。平成元年と令和元年を比較してみると、年少人口(15歳未満)の割合は4.9ポイント、生産年齢人口(15～64歳)の割合は8.6ポイント減少したのに対し、老年人口(65歳以上)の3割合は13.5ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成12年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移 (各年10月1日現在)